

灌水追加、LED^刷新

環境統合制御に新機能

テヌート

(株)テヌート(藤原慶太社長・東京都港区南麻布3の20の1・Daiwa麻布テラス5F)はCO₂局所施用コントローラ「プレス」、光合成効率促進装置「コンダクター」などの開発、製造を行っている。同社は、14日16日に幕張メッセで開催される「第10回農業Week」に出展。前号で

は新製品として出品するCO₂濃度センサーの校正キットを紹介したが、同展ではさらに、環境統合制御が可能な「コンダクター」に新機能を追加し発表する。

同システムは、CO₂濃度を一定に保って活発な光合成を安定的に行わせ、最大400個程度まで設置可能なセンサーで

最大10カ所の異なるエリアの環境を制御し、品質、収量を向上させる。測定を主目的にセンサーを使用するのではなく、あくまで制御を目的としてセンサーを使用し、1秒ごとにCO₂濃度、温度、湿度などを測定。そのデータに基づいて制御し、大幅なランニングコスト低減を達成している。

今回新たに灌水制御システムユニット(製品名「コンダクター」)に接続

した灌水制御ユニットによって10カ所独立して管理が可能となる。今回、自社の灌水システムとして追加することで、より使い勝手が良くなっている。CO₂の施用で収量が上がると同時に、生長が促進されることで必要となる水の量も比例して増えるが、灌水制御が加わることで、より作物に適した制御が可能となった。

また、LEDライトの形状も刷新。八角形状のパイプLEDライトのチップの配置と配色に手を加えた。下方向の光と上方向の光の配色を変え、より栽培に適した補光が可能となるようにした。勿論、コンダクターによる制御も可能だ。このLEDライトも同展で展示する。

このように、CO₂局所施用を柱にしながら、Air、pH、LEDに加えて灌水まで細やかな制御が可能になった。各機能の追加や、センサーの数も変えることができ、基盤を買い換えるなどの必要もなく、規模拡大が可能なのも大きな利点となっている。